

最重要ワード集



2 0 2 3

本書の利用ガイド

後輩から、「告訴と告発は、結局どこが違うのですか？」とか、「名誉毀損と侮辱の違いを一言で言うと何ですか？」などの質問をされたとき、自信をもって回答することができますでしょうか。

法律科目の用語を勉強していますと、分かったつもりでいても、改めて問われると実は分かっていなかったという経験をする人が多いです。本当に分かったといえるためには、類似の言葉と対比して（例えば、「告訴」であれば、「告発」と対比して）、整理することが重要です。対比することによって、同じところと違うところが明らかになり、頭が整理され、より記憶の定着につながるようになるからです。

そこで、法律用語の中でも、試験に出やすい最重要ワードをバトルロイヤル方式で説明したのが本書です。

最重要ワードを、
バトルロイヤル方式でご紹介

でるでるインプット編

刑事訴訟法④

被害届 VS 告訴 VS 告発

被害届、告訴、告発のいずれも、捜査機関に対して犯罪被害を訴えるものであり、これらをきっかけとして捜査が開始されることがあります(それゆえ、いずれも捜査の端緒)。



被害届、告訴、告発の違いはどこにありますか？

No. _____
Date _____

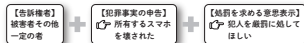
ここを押さえて
10点UP!

1 被害届 VS 告訴

いずれも、被害者などが犯罪被害を捜すが、次の①、②が大きな違いです。

	被害届	告訴
① 犯人の処罰を求める意思表示の要否	不要	必要
② 司法審査の受理権限の有無	あり	なし

- 刑事訴訟法上、重要なのは告訴の方です。告訴とは、被害者その他一定の者(=告訴権者)が、検察官又は司法警察員に対して、**犯罪事実を申告し、犯人の処罰を求める意思表示**をいいます(刑事訴訟法 230 条)。



2 告訴 VS 告発

- 告発も、告訴と同様、単なる犯罪事実の申告で意思表示でなければならぬ点では共通していますのとおりです。

	告発	告訴 (非親告罪の場合)
主体	誰でも*	告訴権者のみ
期間の制限	制限なし(公訴時効満了時まで)	
起訴後の取消し (&再告訴)	できる	
不可分の原則	適用がある(238 II)	適用がない

* 法文では「何人でも」と規定され限定はないが、解釈上、犯人や告訴権者は除かれる。

法律用語を対比させて、整理

法律用語を対比させて、整理

インプット編では、最重要ワードをできるだけ簡潔に説明しました。是非ご一読いただき、試験直前期の法律科目の復習にお役立てください。

でるでるアウトプット編

アウトプット編は、インプット編でご説明しました法律用語を理解できているかどうかの確認です。通常のSA（5枝択一）ではなく、一問一答式にしました。枝文の中には、インプット編では問われていないものもありますが、本試験の出題が予想されるものですので、ご安心ください。

刑法⑨

正当防衛 VS 緊急避難

- 01 } 緊急避難の場合、危険の発生原因は人による行為であると自然現問わない。
- 02 } 緊急避難にあつては、自己又は他人の正当な利益を救うためである第三者の正当な利益を犠牲にすることは許されない。
- 03 } 正当防衛行為は正当行為であることから、相手方の正当防衛行為当防衛を行うことができる。
- 04 } 正当防衛の要件の一つである急迫とは、法益の侵害が間近に押し迫ったことであり、これは被害の現在性を意味する。
- 05 } 緊急避難の許される場合は、正当防衛に比べて要件が緩やかになる。
- 06 } 飼い猫を助けるために人を殺すことは、やむを得ない場合である限り、緊急避難となる。

法律用語を理解しているかどうかを、一問一答式で確認

- 01 ○ 正当防衛は、危険の発生原因は人の行為である必要があるが、緊急避難の場合は自然現象であってもよい。
- 02 × 緊急避難とは、自己又は他人の正当な利益を救うためであれば、善意の第三者の正当な利益を犠牲にすることも許されるとするものである。
- 03 × 正当防衛行為は違法性が阻却されるため「正」となるので、相手方の正当防衛行為に対して正当防衛を行うことはできない。相手方の正当防衛行為に対して行うことができるのは、緊急避難である。
- 04 × 急迫とは、法益の侵害が現に存在しているか、又は間近に差し迫っていることをいう。
- 05 × 緊急避難の要件は、正当防衛に比べて厳格である。これは、緊急避難が、「正対正」の関係で成立するものであり、緊急避難によって侵害される利益を保護する必要性が高いからである。
- 06 × 飼い猫を助けるために人を殺す場合は、緊急避難は成立しない。飼い猫の生命・身体（保全法益）よりも人の生命（侵害法益）の方が重要であるので、厳格な法益権衡の原則の要件を満たさないからである。

解説です。
○ = 正しい枝文
× = 誤りの枝文

目次

利用ガイド	2
略称一覧	10

ゆるゆる
インプット編

憲法① 自由権 VS 社会権 VS 参政権 VS 受益権	12
憲法② プライバシー権 VS 名誉権	13
憲法③ 逮捕 VS 抑留 VS 拘禁	14
憲法④ 証人審問権 VS 証人喚問権	15
憲法⑤ 一事不再理 VS 二重処罰の禁止	16
憲法⑥ 国家賠償請求権 VS 刑事補償請求権	17
憲法⑦ 普通選挙 VS 平等選挙	18
憲法⑧ 常会 VS 臨時会 VS 特別会	19
憲法⑨ 国会の権能 VS 議院の権能	20
憲法⑩ 法律 VS 命令	21
行政法① 都道府県公安委員会 VS 国家公安委員会	22
行政法② 所持品検査 VS 凶器捜検 VS 搜索	23
行政法③ 交通検問 VS 警戒検問 VS 緊急配備検問	24
行政法④ 委任 VS 代理 VS 専決（代決）	25
行政法⑤ 懲戒処分 VS 分限処分	26
刑法① 類推解釈 VS 拡張解釈	28
刑法② 作為犯 VS 不作為犯	29
刑法③ 結果犯・拳動犯 VS 侵害犯・危険犯	30
刑法④ 継続犯 VS 状態犯 VS 即成犯	31
刑法⑤ 故意の種類	32

刑法⑥	故意 VS 過失	33
刑法⑦	事実の錯誤 VS 法律の錯誤	34
刑法⑧	具体的事実の錯誤 VS 抽象的事実の錯誤	35
刑法⑨	正当防衛 VS 緊急避難	36
刑法⑩	既遂犯 VS 未遂犯	37
刑法⑪	不能犯 VS 未遂犯	38
刑法⑫	障害未遂 VS 中止未遂	39
刑法⑬	共同正犯 VS 同時犯	40
刑法⑭	教唆犯 VS 幫助犯	41
刑法⑮	共同正犯 VS 教唆犯 VS 幫助犯 VS 間接正犯	42
刑法⑯	真正身分犯 VS 不真正身分犯	43
刑法⑰	法定刑 VS 処断刑 VS 宣告刑 ~ 刑罰の適用	44
刑法⑱	刑の免除 VS 刑の減輕 VS 刑の減免	45
刑法⑲	法条競合 VS 包括一罪	46
刑法⑳	科刑上一罪 VS 併合罪	47
刑法㉑	殺人罪 VS 自殺関与罪 VS 同意殺人罪	48
刑法㉒	「暴行」の概念	49
刑法㉓	暴行罪 VS 傷害罪	50
刑法㉔	殺人罪 VS 傷害致死罪 VS 過失致死罪	51
刑法㉕	暴行罪 VS 傷害罪 VS 傷害致死罪 VS 過失傷害罪 VS 過失致死罪	52
刑法㉖	遺棄 VS 不保護	53
刑法㉗	「脅迫」の概念	54
刑法㉘	逮捕 VS 監禁	55
刑法㉙	人の「住居」 VS 人の看守する「邸宅」 VS 人の看守する「建造物」	56
刑法㉚	名誉毀損 VS 侮辱	57
刑法㉛	窃盜罪 VS 占有離脱物横領罪~置き忘れた物を奪った事案の擬律判断	58
刑法㉜	窃盜罪 VS 詐欺罪	59
刑法㉝	窃盜罪 VS 強盜罪~ひったくり事案の擬律判断	60
刑法㉞	事後強盜 VS 居直り強盜	61
刑法㉟	強盜致傷罪 VS 強盜傷人罪 VS 強盜致死罪 VS 強盜殺人罪	62
刑法㊱	現住建造物等放火罪 VS 非現住建造物等放火罪 VS 建造物等以外放火罪	63

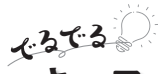
刑法③⑦	有形偽造 VS 無形偽造	64
刑事訴訟法①	司法警察職員 VS 司法警察員 VS 司法巡查	66
刑事訴訟法②	司法警察員 VS 司法巡查	67
刑事訴訟法③	一般的指示権 VS 一般的指揮権 VS 補助命令権	68
刑事訴訟法④	被害届 VS 告訴 VS 告発	69
刑事訴訟法⑤	被害者 VS 被害者以外の告訴権者	70
刑事訴訟法⑥	親告罪 VS 非親告罪	72
刑事訴訟法⑦	強制捜査 VS 任意捜査	73
刑事訴訟法⑧	強制処分法定主義 VS 令状主義	74
刑事訴訟法⑨	通常逮捕 VS 現行犯逮捕 VS 緊急逮捕	75
刑事訴訟法⑩	現行犯逮捕 VS 準現行犯逮捕	76
刑事訴訟法⑪	逮捕の「相当な理由」 VS 逮捕の「充分な理由」	77
刑事訴訟法⑫	令状による捜索・差押え VS 令状によらない捜索・差押え	78
刑事訴訟法⑬	電磁的記録に対する差押え	79
刑事訴訟法⑭	証拠能力 VS 証明力	80
刑事訴訟法⑮	自白法則 VS 補強法則	81


 ぐるぐる
アウトプット編

憲法①	自由権 VS 社会権 VS 参政権 VS 受益権	84
憲法②	プライバシー権 VS 名誉権	85
憲法③	逮捕 VS 抑留 VS 拘禁	86
憲法④	証人審問権 VS 証人喚問権	87
憲法⑤	一事不再理 VS 二重処罰の禁止	88
憲法⑥	国家賠償請求権 VS 刑事補償請求権	89
憲法⑦	普通選挙 VS 平等選挙	90
憲法⑧	常会 VS 臨時会 VS 特別会	91
憲法⑨	国会の権能 VS 議院の権能	92
憲法⑩	法律 VS 命令	93


行政法①	都道府県公安委員会 VS 国家公安委員会	94
行政法②	所持品検査 VS 凶器捜検 VS 搜索	95
行政法③	交通検問 VS 警戒検問 VS 緊急配備検問	96
行政法④	委任 VS 代理 VS 専決（代決）	97
行政法⑤	懲戒処分 VS 分限処分	98
刑法①	類推解釈 VS 拡張解釈	100
刑法②	作為犯 VS 不作為犯	101
刑法③	結果犯・拳動犯 VS 侵害犯・危険犯	102
刑法④	継続犯 VS 状態犯 VS 即成犯	103
刑法⑤	故意の種類	104
刑法⑥	故意 VS 過失	105
刑法⑦	事実の錯誤 VS 法律の錯誤	106
刑法⑧	具体的事実の錯誤 VS 抽象的事実の錯誤	107
刑法⑨	正当防衛 VS 緊急避難	108
刑法⑩	既遂犯 VS 未遂犯	109
刑法⑪	不能犯 VS 未遂犯	110
刑法⑫	障害未遂 VS 中止未遂	111
刑法⑬	共同正犯 VS 同時犯	112
刑法⑭	教唆犯 VS 幫助犯	113
刑法⑮	共同正犯 VS 教唆犯 VS 幫助犯 VS 間接正犯	114
刑法⑯	真正身分犯 VS 不真正身分犯	115
刑法⑰	法定刑 VS 処断刑 VS 宣告刑 ～ 刑罰の適用	116
刑法⑱	刑の免除 VS 刑の減輕 VS 刑の減免	117
刑法⑲	法条競合 VS 包括一罪	118
刑法⑳	科刑上一罪 VS 併合罪	119
刑法㉑	殺人罪 VS 自殺関与罪 VS 同意殺人罪	120
刑法㉒	「暴行」の概念	121
刑法㉓	暴行罪 VS 傷害罪	122
刑法㉔	殺人罪 VS 傷害致死罪 VS 過失致死罪	123
刑法㉕	暴行罪 VS 傷害罪 VS 傷害致死罪 VS 過失傷害罪 VS 過失致死罪	124

刑法②⑥	遺棄 VS 不保護	125
刑法②⑦	「脅迫」の概念	126
刑法②⑧	逮捕 VS 監禁	127
刑法②⑨	人の「住居」VS 人の看守する「邸宅」VS 人の看守する「建造物」	128
刑法③⑩	名誉毀損 VS 侮辱	129
刑法③⑪	窃盗罪 VS 占有離脱物横領罪～置き忘れた物を奪った事案の擬律判断	130
刑法③⑫	窃盗罪 VS 詐欺罪	131
刑法③⑬	窃盗罪 VS 強盗罪 ～ ひったくり事案の擬律判断	132
刑法③⑭	事後強盗 VS 居直り強盗	133
刑法③⑮	強盗致傷罪 VS 強盗傷人罪 VS 強盗致死罪 VS 強盗殺人罪	134
刑法③⑯	現住建造物等放火罪 VS 非現住建造物等放火罪 VS 建造物等以外放火罪	135
刑法③⑰	有形偽造 VS 無形偽造	136
刑事訴訟法①	司法警察職員 VS 司法警察員 VS 司法巡査	138
刑事訴訟法②	司法警察員 VS 司法巡査	139
刑事訴訟法③	一般的指示権 VS 一般的指揮権 VS 補助命令権	140
刑事訴訟法④	被害届 VS 告訴 VS 告発	141
刑事訴訟法⑤	被害者 VS 被害者以外の告訴権者	142
刑事訴訟法⑥	親告罪 VS 非親告罪	143
刑事訴訟法⑦	強制捜査 VS 任意捜査	144
刑事訴訟法⑧	強制処分法定主義 VS 令状主義	145
刑事訴訟法⑨	通常逮捕 VS 現行犯逮捕 VS 緊急逮捕	146
刑事訴訟法⑩	現行犯逮捕 VS 準現行犯逮捕	147
刑事訴訟法⑪	逮捕の「相当な理由」VS 逮捕の「充分な理由」	148
刑事訴訟法⑫	令状による捜索・差押え VS 令状によらない捜索・差押え	149
刑事訴訟法⑬	電磁的記録に対する差押え	150
刑事訴訟法⑭	証拠能力 VS 証明力	151
刑事訴訟法⑮	自白法則 VS 補強法則	152

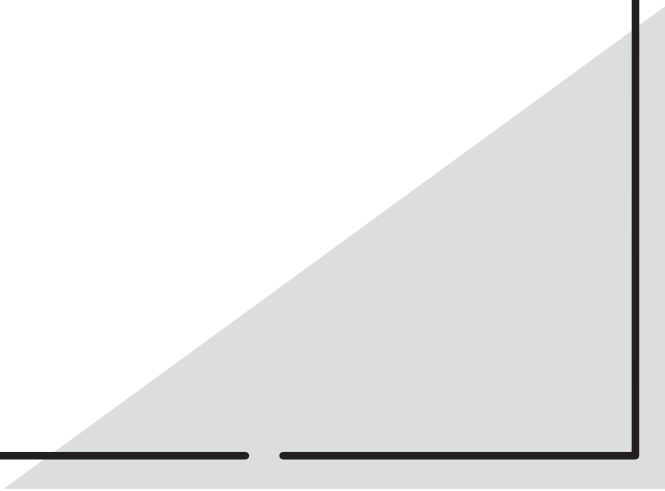


キーワード編

憲法	154
行政法	155
刑法	156
刑事訴訟法	158

ぞるぞる 

インプット編



憲法①

自由権 VS 社会権 VS 参政権 VS 受益権



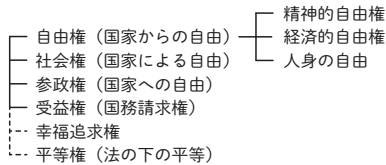
基本的人権は、自由権（自由権的基本権）、社会権（社会権的基本権）、参政権、受益権に分けることができます。

これらはどのような違いがありますか？

No. _____

Date _____

ここを押さえておけば
10点UP!



最も古典的な権利は、自由権です。これは、国家からの介入・干渉を受けない権利です。精神的自由権、経済的自由権、人身の自由の3つに分けられます。

しかし、金持ちなどの社会的・経済的強者とは異なり、路上生活者や勤労者等の社会的・経済的弱者にとっては、自由権だけでは生活ができません（「橋の下に眠る自由」などと揶揄されたこともありました）。そこで、そうした弱者の生存を確保する施策をするよう、国に対して積極的に求める権利が必要となりました。これが社会権です。ただし、通常、その実現のためには法律による具体化（例えば、生活保護法や労働基準法等）が必要であり、この点が、国家に不作為を求める自由権とは異なります。

参政権とは、国の政治に参加する権利であり、選挙権や被選挙権がこれに当たります。

最後に、受益権とは、国にサービスの提供を求める権利です（そのため、国務請求権ともいいます）。国に対して積極的に介入を求める点では社会権と類似していますが、社会権が特に念頭に置いているのが弱者であるのに対し、受益権ではそうした制限がない点が異なります。

なお、憲法13条が保障していると考えられる幸福追求権（例えば、プライバシー権がこれに含まれます）や、憲法14条の定める平等権（法の下での平等）は、上記のような分類になじまず、それらと併置されています。

憲法②

プライバシー権 VS 名誉権



例えば、X が職場で「同僚の A は、若いころ暴走族に入ってやんちゃしていた」と話した場合、プライバシーと名誉のどちらが問題となるのかが分かりません。

プライバシー権と名誉権の違いは何ですか？

No. _____

Date _____


ここを押さえておくと
10点UP!

	名誉権	プライバシー権
権利侵害と社会的評価	社会的評価を低下させるだけの具体的事実の指摘が必要となる	社会的評価の低下とは無関係。仮に社会的評価の上昇があったとしても、プライバシー侵害となる
真実性の証明	公表した事実が真実であると証明できれば、免責される	真実であると証明しても免責されない
法律による保護	民法、刑法で保護	民法でのみ保護

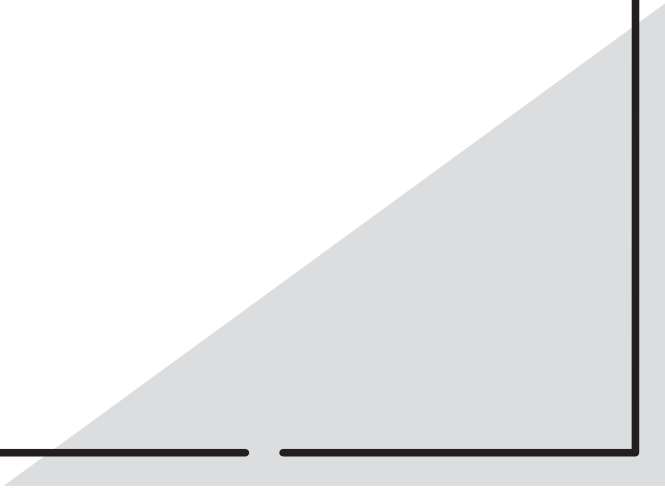
名誉とは、ちまたの評判（＝社会的評価）のことです。この評判を下げるような具体的な事実（出来事や事件等）をみんなの前で述べると、名誉毀損となります。「暴走族に入ってやんちゃしていた」といった冒頭の暴露は、評判を低下させる事実の公表なので、それが真実であるか否かを問わず、名誉毀損となります。

そうすると、ニュースによる実名報道（「〇〇は、殺人罪で逮捕された」という報道）は、名誉毀損となりそうですが、犯罪報道などの表現の自由を確保する必要があるため、真実であることが証明できた（真実性の抗弁）などの一定の要件を満たせば、免責されることになっています（ニュースの実名報道が名誉毀損とならないのはこれが理由です）。

以上に対して、プライバシー侵害は、公表してはならない個人情報が公開されたことで成立します。その意味で、プライバシー侵害は、名誉毀損の場合と異なり、上記の真実性の抗弁は妥当しません。私的情報が公開されたこと自体が権利侵害なのだから、情報が真実であることを証明しても免責されないわけです。

ゆるゆる 


アウトプット編



憲法①

自由権 VS 社会権 VS 参政権 VS 受益権


- 01} 自由権とは、国家権力の干渉・介入を排除して、個人の自由を確保する権利をいう。
- 02} 自由権は、「国家からの自由」とも呼ばれ、精神的自由権、経済的自由権の2つに分かれる。
- 03} 社会権とは、個人の尊厳や、人の生存の維持・発展に必要な諸条件の整備を国家に対して要求する権利をいう。
- 04} 社会権は、「国家への自由」とも呼ばれ、生存権、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権がある。
- 05} 国家との関係では、自由権は国家の干渉を排除する、社会権は国家の保護を受ける、参政権は国政に参画する、受益権は国家に要求するものと説明できる。
- 06} 受益権は、国務請求権とも呼ばれ、裁判を受ける権利、国家賠償請求権など、人権を保障するための権利である。
- 07} 基本的人権は、自由権、社会権、参政権、受益権のいずれかに分類され、それ以外には存在しない。


- 
- 01○ 枝文のとおり。
- 02× 「2つに分かれる」は誤り。自由権は、精神的自由権、経済的自由権のほか、人身の自由に分かれる。
- 03○ 枝文のとおり。
- 04× 「国家への自由」ではなく、「国家による自由」が正しい。
- 05○ 枝文のとおり。
- 06○ 枝文のとおり。
- 07× 自由権、社会権、参政権、受益権のいずれにも分類されないものとして、例えば、平等権や幸福追求権がある。

憲法②

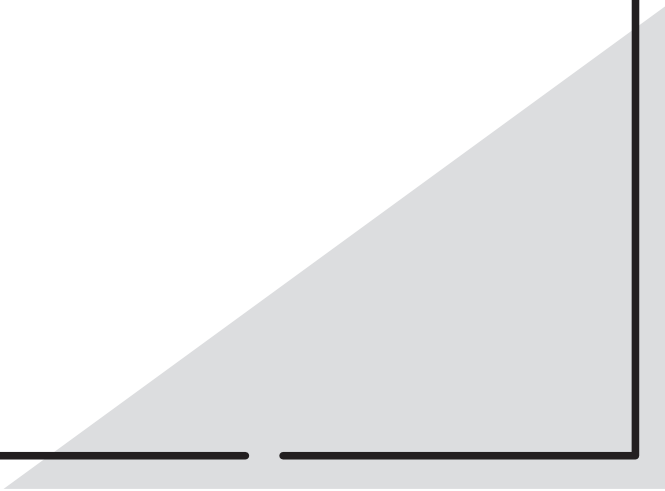
プライバシー権 VS 名誉権

- 01 〆 X が、テレビ放送の中で、「恵まれない子供たちに匿名で寄附をしている『タイガーマスク』は、実は A である」と暴露した。この場合、X は、A の名誉を毀損したとはいえないが、プライバシー侵害にはなり得る。
- 02 〆 名誉毀損は、公表した事実が真実であるか否かを問わず成立するから、「A は ×× 罪の嫌疑で逮捕された」など社会的評価を低下させるに足りる具体的事実を公然と指摘した場合は、名誉毀損に問われる。
- 03 〆 個人の私生活上の自由の 1 つとして、何人も、承諾なしに、みだりに容貌・姿態を撮影されない自由を有する。
- 04 〆 前科などは、人の名誉、信用に直接関わる事項であり、前科などのある者もこれをみだりに公開されないという法律上の保護に値する利益を有する。
- 05 〆 自動車速度監視装置による運転者の容貌の写真撮影は、現に速度違反が行われている場合になされ、犯罪の性質・態様からいって緊急に証拠保全をする必要があり、その方法も一般的に許容される限度を超えない相当なものであるが、その際に同乗者の容貌まで撮影することはその趣旨を逸脱した行為であるため、憲法 13 条の趣旨に照らし許されない。

- 
- 01 ○ 匿名で寄附することは、社会的評価を低下させるだけの事実とはいえないから、名誉毀損とはいえない。しかし、私的情報が公開されているため、プライバシー侵害にはなり得る。
- 02 × 社会的評価を低下させるに足りる具体的事実を公然と指摘したとしても、①事実の公共性、②目的の公益性、③事実の真実性の要件を満たせば、名誉毀損として処罰されない（刑法 230 条の 2）。
- 03 ○ 最判昭 61. 2. 14。
- 04 ○ 最判昭 56. 4. 14。
- 05 × 同乗者の容貌を撮影することになっても憲法 13 条の趣旨に反しない（前掲最判昭 61. 2. 14）。

ぞるぞる 

キーワード編



憲 法

<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自由権的基本権 じゆうけんてききほんけん	個人が政府から自由を奪われない権利。この権利は、人権の歴史の中でも最初に取り上げられたもの。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 社会権的基本権 しゃかいけんてききほんけん	病者・貧困者などの弱者が国に救済を求める権利。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> プライバシーの権利 ぷらいばしーのけんり	私的な情報を侵害されない権利。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 適正手続の保障 てきせいてつづきのほしょう	政府が国民に不利益を課す場合は、反論のチャンスを与えるなどの手続の正しさが求められるということ。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 不当に逮捕されない権利 ふとうにたいほされないけんり	不当に身柄を拘束されない権利のこと。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 拘禁理由の開示請求権 こうきんりゆうのかいじせいきゅうけん	身体拘束された者が、身体拘束の理由を裁判所において明らかにするよう求める権利のこと。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自白（排除）法則 じはく（はいじょ）ほうそく	拷問などを加えられた結果、意思に反して行った自白は、証拠として扱うことができないという原則のこと。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 国政調査権 こくせいちょうさけん	立法などの権能行使のために各議院が情報収集を行う権利のこと。

行政法

<input type="checkbox"/> 都道府県公安委員会 <input type="checkbox"/> とどうふけんこうあんいんかい	各都道府県警察の監督を行う住民の代表。
<input type="checkbox"/> 国家公安委員会 <input type="checkbox"/> こっかこうあんいんかい	警察庁を管理する行政機関のこと。国家公安委員会委員長は国務大臣が任命される。
<input type="checkbox"/> 職務質問 <input type="checkbox"/> しょくむしつもん	犯罪に何らかの形で関係していると思われる者に対して、警察官が任意で質問をすること。
<input type="checkbox"/> 自動車検問 <input type="checkbox"/> じどうしゃけんもん	犯罪の予防・捜査等のため、警察官が、走行中の自動車を停止させて運転者や同乗者に質問等を行うこと。
<input type="checkbox"/> 所持品検査 <input type="checkbox"/> しょじひんけんさ	警察官が、相手方に所持品の提示や開示を求めたり、警察官自ら調べる行為のこと。
<input type="checkbox"/> 凶器捜検 <input type="checkbox"/> きょうきそうけん	警察官は、逮捕されている者について、強制的に凶器を所持しているかどうか調べること。
<input type="checkbox"/> 分限処分 <input type="checkbox"/> ぶんげんしよぶん	公務の能率を維持することを目的に、職員が適格性を欠いたりした場合等に行われる不利益な処分のこと。
<input type="checkbox"/> 懲戒処分 <input type="checkbox"/> ちょうかいしよぶん	やってはいけないこと（懲戒事由）をした公務員に科される制裁のこと。

刑 法

<input type="checkbox"/> 真正不作為犯 しんせいふさくいはん <input type="checkbox"/>	「〇〇しなかった」という形で条文が書かれている犯罪を、不作為によって犯すこと。
<input type="checkbox"/> 不真正不作為犯 ふしんせいふさくいはん <input type="checkbox"/>	「〇〇しなかった」という形で条文が書かれていない犯罪を、不作為によって犯すこと。
<input type="checkbox"/> 正当防衛 せいとうぼうえい <input type="checkbox"/>	いきなり襲われたため、やむを得ず行う防衛行為。違法性阻却事由のひとつ。
<input type="checkbox"/> 緊急避難 きんきゅうひなん <input type="checkbox"/>	自分の身に危険が迫っていたため、落ち度がない他人の権利をやむを得ず侵害した場合。
<input type="checkbox"/> 故意 こい <input type="checkbox"/>	殺人罪であれば、殺したいという意欲がある場合はもちろん、そこまでは思わないが殺しても構わないと思っていれば（認容）、認められる。
<input type="checkbox"/> 過失 かしつ <input type="checkbox"/>	不注意のこと。認容がない点が故意との決定的な違い。
<input type="checkbox"/> 具体的事実の錯誤 ぐたいてきじじつのさくご <input type="checkbox"/>	予想外の結果が生じたが、それが犯人が元々思っていたのと同じ犯罪内にとどまった場合のこと。
<input type="checkbox"/> 抽象的事実の錯誤 ちゅうしょうてきじじつのさくご <input type="checkbox"/>	予想外の結果が生じたが、それが犯人が元々思っていたのと違う犯罪に及んだ場合のこと。

刑事訴訟法

<input type="checkbox"/> 司法警察職員 <input type="checkbox"/> しほうけいさつしよくいん	犯罪の捜査をする権限を持っている公務員。 ㊦警察官
<input type="checkbox"/> 司法警察員 <input type="checkbox"/> しほうけいさついいん	原則として、巡査部長以上の警察官のこと。
<input type="checkbox"/> 司法巡査 <input type="checkbox"/> しほうじゅんさ	巡査である警察官のこと。
<input type="checkbox"/> 告訴 <input type="checkbox"/> こくそ	被害者等が犯罪の被害に遭ったことを捜査機関に報告し、犯人の処罰を求めること。
<input type="checkbox"/> 告発 <input type="checkbox"/> こくはつ	告訴権者以外の者が、捜査機関に対して犯罪事実を申告し、犯人の処罰を求めること。
<input type="checkbox"/> 親告罪 <input type="checkbox"/> しんこくざい	告訴がなければ、公訴を提起できない犯罪のこと。
<input type="checkbox"/> 任意捜査 <input type="checkbox"/> にんいそうさ	強制捜査に当たらない捜査のこと。
<input type="checkbox"/> 強制捜査 <input type="checkbox"/> きようせいそうさ	強制的な方法による捜査のこと。令状が原則として必要である（令状主義）。